



令和8年度

学校経営計画

狛江市立狛江第二中学校

校長 荒川 元 邦

1 狛江市の教育理念

- 子どもたち一人ひとりが、人格の形成と互いの個性の尊重を基本として、地域や社会の中で自立し、健康で幸福に生きていく力を身につけ、狛江で受けた教育を誇りとして、平和で心豊かな共生社会を築き発展させる力を身につける教育の実現を図る。
- 市民一人ひとりが、自己の人格を磨き、健やかで豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって学び、適切に活かすことのできる社会の実現を図る。

2 狛江市の教育目標

- (1) 互いの生命と人格・人権を尊重し、地域を愛し社会に貢献する意識の醸成
- (2) 知・徳・体の調和がとれた力をはぐくみ個性や創造力を伸ばす学校教育の充実
- (3) 生涯にわたり主体的に学ぶことができる学習環境と運動環境の整備と拡充

3 二中ゾーンの義務教育を修了したときの姿

- 郷土「狛江」を愛する姿
- 互いに感謝の気持ちをもつ姿
- 地域の人へ気持ちよく挨拶できる姿

4 学校の教育目標

互いを認め合い感謝し合い、共に生きていくことを意識し、未来への夢や目標に主体的に向かい、強い意志で自らを律しつつ、その実現に努めるとともに、我が国と郷土を愛し、正義感や公正さを重んじ、持続可能な社会の創り手としての生きる力を身に付けた生徒の育成を図るために次の目標を定める。

(1) 相互敬愛「自他の生命を尊重し、相互に敬意や愛情をもって支え合う生徒」

⇒ (人間関係形成能力)

※ 相手も自分自身もかけがえのない存在として捉え、敬意や愛情をもって接することで共感的な人間関係を形成し、自他の個性を尊重し、相手の立場になって考え、「共生」する力。

※ キャリア教育で育成すべき4領域の中の1つ:「人間関係形成・社会形成能力」＝異なる価値観を乗り越え関係を築くことができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め役割と責任を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、社会性の育成に留まらず、積極的に今後の社会をより良い社会に形成する力。

(2) 自主自律「自ら学び考え自らを律し、主体的に学習し行動する生徒」

⇒ (問題発見・解決能力)

※ 興味や関心のあることに探究心をもち、自ら課題意識をもって粘り強く課題解決に取り組む中で、自分なりの答えを発見し、自分にとって最適な学習方法を発見する力。

※ 自ら問題を発見し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測し、試行錯誤しな

がら実行し、プロセスを振り返って次の問題発見・解決につなげていく力。

(3) 意志と実践「夢や目標の実現に向け、強い意志をもち、前向きに実践する生徒」

⇒ (実践力→自己実現)

※ 自分の将来に夢や希望をもち、目標に向かって失敗を恐れずに自分の意志で挑戦し、実践する。そのための主体性及びチャレンジ精神

※ 「情報活用の実践力」、「道徳的実践力」、「教科における実践力」、「特別活動における自主的で実践的な態度」等

5 目指す学校像

- “子供ファースト”の教育活動の推進
- 教職員が働きやすく、働きがいのある職場環境の構築

- (1) 人権尊重を第一とし、自分の良さに気付き、自己肯定感や自尊感情の向上により、人権尊重の教育を進め、誰もが安心して過ごせる学校
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」及び「学ぶ楽しさを感じられる」授業が展開され、生徒が学ぶ力をつけるという観点に立ち、確かな学力を身に付ける学校
- (3) 生徒たちが相互に支え、認め合い、「共生」の心で生き生きと活動できる教育活動を通して自己有用感を高め、自己実現できる学校

6 教育目標（「相互敬愛」「自主自律」「意志と実践」）を達成するための基本方針学校経営の基本的な方針

子供たちも教職員も “H a p p y” になるよう、「通いたくなる学校」「働きたくなる学校」を合言葉に、教職員の英知を結集し、「凝集性」「同僚性」を高め、チームとして一致協力して教育目標の達成に向けての不断の努力を続けていく。

- (1) 「相互敬愛」人間関係形成能力を育成するために
 - ① 全ての教育活動を通して、自他の生命を尊重し、相互に認め合い、高め合う人間関係の在り方の指導に努め、他者への敬意や思いやり、人権を尊重する態度の育成を図る。
 - ② 人権尊重の精神とは「自分が大切であるように他の人も大切に作る心」である。すなわち、「自分を大切にできない生徒は他の人も大切にできない」という考えの下に、生徒の自尊感情・自己肯定感の向上を土台にし、人権教育や豊かな人間性の育成につなげる。
- (2) 「自主自律」問題発見・解決能力を育成するために
 - ① 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の育成及び学びに向かう力、人間性等の涵養をバランスよく実現する。
 - ② 「何を学びたいか」「どのような行事にしたいか」等、生徒の意思や選択を認め、学習活動を積極的に生徒に委（ゆだ）ね、任せる場面を意識的に設ける。すなわち、学習の場面や単元に応じて自己の興味や関心のあることを、自ら計画を立て、自己のペースで試行しながら探究することで、生徒自らが自分にとって最適な学び方を発見する力を育む。
- (3) 「意志と実践」実践力を育成するために
 - ① 全ての教育活動の中で、生徒が自らの意志で、自ら考え、選択し、決定し、実践する機会を意図的に設定する。また、生徒が他者と積極的に関わり合う中で、生徒が他者から「認められ・感謝される」体験をすることをおして、意欲、実践力を

高め、自己実現に向かうことができるようにする。

- ② キャリア教育を基軸として生徒一人ひとりが自己理解を深め、主体的に進路選択する能力を伸張し自己実現ができるよう、中学校3年間を見通した進路計画に基づく進路学習の充実を図るとともに、キャリア・パスポートを活用して連続性のあるキャリア教育を推進する。

7 教職員の基本姿勢

- (1) 「人権尊重・人格尊重・生命尊重」を常に念頭に置き、人権を尊重し、人権第一の学校づくりを教職員がチームとして一丸となつて行う。
- (2) 時代の変化に対応するため、社会に目を向ける。また、不易（時代を超えて変わらないもの）を意識しつつも、学校の慣例にとらわれず、社会的な変化の中で常に生徒の実態を捉え、「生徒のために一番良いことは何か」という視点で教育活動を展開する。
- (3) 生徒とともに自ら学んでいく姿勢をもつ～狛江市教育研究奨励校の取組をチャンスとする～教員一人ひとりが主体的に研究テーマ「探究的な学習」の視点で授業研究を行い、自己の授業を振り返り、積極的に授業観の転換を図る。
- (4) 学校の長所は、生徒同士が互いに刺激し合い、影響し合って成長し、切磋琢磨できる場である。認め合い支え合う学校文化を大切にし、生徒の自信及び自尊感情、自己肯定感を高める。
- (5) 生徒理解に努め、生徒がもっている可能性を信じ、生徒に期待し、寄り添い、共感する姿勢を重視した生徒指導を行う。
- (6) 他者への感謝を大切にし、人に役立ち、喜んでもらえることに幸せを感じる活動や体験を行い、自己有用感や自己肯定感を高める。
- (7) 保護者や地域の思いや期待（保護者の視点・地域の視点をもつ）に応え、教職員が協働して生徒の成長を支援する。
- (8) 学校組織内の自己の役割と責任を意識し、自己の「長所や強み」の自覚と、その特徴を生かした組織貢献・人材育成を行う。
- (9) 特別支援教育の視点を持ち、困難さを抱えている生徒を的確に把握し、その困難さから対応を考え、成功体験を積み重ねる等、安心感や自信や意欲を高める関わりを重視する。また、同時に「ユニバーサルデザイン教育」＝「すべての生徒に分かりやすい教育」を進める。

8 今年度の重点課題

- (1) 「生徒を主語にした個別最適な学び」
各教科の単元の中で、自己の学習進度や興味に応じて教材や学ぶ方法を選択できる学習形態を取り入れ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることで、自ら考え自ら進んで物事に取り組む自主的・自発的な生徒を育成する。
- (2) GIGA スクール構想の進展（授業と家庭学習のシームレス化と授業評価への活用）
生徒用タブレットの日常的な利用を推進し、授業中のみならず、学習課題の提示や提出を工夫し、家庭（休み時間・放課後を含む）での学習にも積極的に活用していく。すなわち、家庭学習を授業の一部と捉えた学習活動（シームレス化）を展開する。また、授業後の振り返り（授業評価）や確認テストに Forms を活用し、定着度の把握と生徒へのフィードバックを積極的に行う。さらに、知識技能の習得をねらいとした内容の解説動画等（自宅学習用のコンテンツ）の充実を図り、基礎学力の定着と授業における話し合い活動や協働的学習の時間確保に努める。
- (3) 主体性の育成を重視した計画の立案と改善（カリキュラム・マネジメントの推進）
学校行事、総合的な学習の時間、学級活動等の全体計画について、何のために行うのか、生徒にどのような力をつけるのかを明確にし、系統性をもたせ、生徒の主体性

の育成に主眼をおいた立案と改善を行う。個々の学習活動においても、二中の伝統や二中の良さを再確認しながら、「目的」と「手段」を混同せず、これからの時代を生き抜く生徒たちという視点で必要な資質や能力を高める。

(4) 小中連携及びコミュニティ・スクールの活動の充実

- ① 管理職及び主幹教諭の兼務発令を生かし、三小・六小との連携を積極的に図り、学習面の連続性においては、「探究的な学習」を中心に指導内容や指導方法の確認及び交流活動等を通して、小中学校の円滑な接続や義務教育9年間を見通した系統的な教育活動を推進する。
- ② 二中ゾーン（三小・六小・二中）のコミュニティ・スクールを推進し、保護者や地域の教育力を活用した教育活動を意図的・計画的に行い、学校が中核となって地域に根ざした学校づくりを展開するとともに、各種便りや学校ホームページ等を通して積極的に情報を発信し、社会に開かれた学校を目指す。

9 今年度の指導の重点（狛江市教育委員会教育施策との関連）

(1) 人生を切り拓いていく力の育成及び誰一人取り残さない教育の推進

- ① 人権教育の推進といじめ・不登校の未然防止（WEBQUを活用したよりよい集団づくり等）
 - ・ 人権尊重の精神とは「自分が大切であるように他の人も大切にできる心」である。すなわち、「自分を大切にできない生徒は他の人も大切にできない」という考えの下に、自尊感情・自己肯定感の向上も図りながら、人権教育や豊かな人間性の育成につなげる。
 - ・ 年3回、各学期の初めに「いじめに関する授業（道徳や学級活動）」を実施し、生徒がいじめについて深く考え、いじめは許されないことを再認識できるようにする。また、生徒会による自治活動を通して、生徒自らが学校生活を改善していこうとする意欲を高めるとともに、生徒会が作成した「二中人権宣言」を活用し、いじめの未然防止に努め、あらゆる機会を活用して「いじめをしない・させない・見逃さない・見て見ぬふりをしない」態度の育成を図る。
 - ・ いじめや不登校問題の未然防止や早期発見、早期対応のために、アンケート調査や個別相談等を通して生徒理解を深めるとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家を含んだ組織的な教育相談体制の充実を図り、悩みや心に問題をもつ生徒に対して積極的かつ組織的に関わる。特に、いじめ問題については、「いじめ防止対策推進法」の理解と「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ問題に関する校内研修を適時適切に実施するとともに、学校いじめ防止委員会の機能を十分に発揮させ、いじめ防止対策の推進及びいじめの認知・解決・解消に向けた組織的な取組を推進する。
 - ・ 自殺防止については、様々な困難・ストレスへの対処方法を身に付けるための授業を、東京都教育委員会作成のDVD等を活用し、保健体育、道徳や学級活動等において少なくとも1単位時間確保し、SOSの出し方に関する教育を着実に図る。
 - ・ 挨拶を基本とするコミュニケーションを大切にすることで、生徒と教員との信頼関係を高めるとともに、WEBQUの結果等を活用し生徒の実態把握に努め、学年・学級における集団づくり及び年3回の教育相談を通じた個別指導等に生かす。
 - ・ 不登校生徒や悩みを抱える生徒の対応として、「社会的自立」を目指し、特別支援教育校内委員会を中心に全校体制で取り組む。また、校内研修を充実させ、教職員の実践的指導力の向上を図るとともに教育支援センターとの連携を深める。
 - ・ 校外学習等の体験的な活動を通して、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、社会生活上のルールへの尊重や責任感を高めるための観点を重視した諸活動を実施する。その際、WEBQUの結果等を活用して、学級・学年の指導を通じ生徒一

人ひとりの理解を深め、よりよい人間関係を築く力の育成を図り、互いに高め合う集団づくりを推進する。

② グローバルに活躍できる資質・能力の育成

- ・ 英語では、基礎的・基本的な内容及び発展的な内容の充実を図るとともに、ALTやオンラインスピーキングトレーニングを効果的に活用し、英語でのコミュニケーション能力の向上を図る。特に、3年次のTGG（東京グローバル・ゲートウェイ）の訪問前及び訪問後には「聞く」「話す」の指導を重点的に取り組む。
- ・ 豊かなスポーツライフの充実を目指し、学年に応じて課題を設定して、調べ発表し合う学習を通して、「ボランティアマインド」と「豊かな国際感覚」の二つの資質を重点的に育成しながら「狛江二中 2020 レガシー」として生徒一人ひとりの心と体に残していく。
- ・ 自己の特性についての理解を深め、キャリア教育の視点に立った職業観・勤労観の育成を図り、生徒が自らの生き方を考えていくことができるような能力や態度を育成する。

③ 体力の向上と健康教育の推進

- ・ 保健体育科においては、運動する生徒とそうでない生徒の二極化の実態を踏まえて意図的・計画的に「体づくり運動」の学習を展開し、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせることで、主体的に運動に取り組む態度を養う。また、運動領域に応じて体力・能力差を考慮しながら男女共習やグループ学習を展開することで、一人ひとりの違いを認め、運動の多様な楽しみ方に触れ、生涯にわたる豊かなスポーツライフの充実に向けた取組を推進する。
- ・ SOS の出し方に関する教育は、保健分野の中でストレスへの対処に関連付けて指導するとともに、学期末には各学級や全校朝会等で命の大切さについて取り扱い、自殺予防に努める。
- ・ 自ら薬物の被害から身を守るための知識を身に付け、生涯にわたり健康な生活が送れるよう、薬物乱用・飲酒喫煙防止教室を第1・2学年で実施する。
- ・ 保健指導及び食育の観点を踏まえた給食指導を充実させるとともに、食物アレルギーについての理解を深め事故の絶無に努める。
- ・ 「がん教育」を保健分野に位置付け、2年生においては、ゲストティーチャーによる「がんに関する講演会」を行い「がん」に関する指導の充実を図る。
- ・ 部活動等を通して健康な身体と精神力の向上を図ると同時に、事故や熱中症等の安全に関する指導の充実を図る。

④ 特別支援教育の充実

- ・ 特別支援教育コーディネーターを各学年に配置した上で、校内委員会を週一回定期的に開催し、情報共有のみならず、個別の対応について検討する時間を確保し、個に応じた支援を充実させる。また、生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握するための教育相談を充実させるとともに、学校生活支援シート及び個別指導計画の作成・活用を図る。
- ・ 巡回相談を活用し、特別支援教育コーディネーターを中心に関係諸機関の支援を積極的に受けるとともに、教員一人ひとりが特別支援教育への理解を深め、生徒の実態に応じた指導の充実を図る。
- ・ WEBQUの結果を活用し、スクールカウンセラーとの連携を図りながら、発達障がい等のあるなしに関わらず、生徒全員が生き生きと学ぶことができるユニバーサルデザインの教育の実現を図る。
- ・ 都立特別支援学校との連携を充実させるとともに、副籍事業としての授業交流を積極的に行い、居住地校交流の推進に努める。
- ・ 特別支援教室については、在籍学級担任と巡回指導教員との連携をより十分に

行い、生徒一人ひとりの状況に応じた指導内容のより一層の充実を図る。教科の補充指導は、自立活動の中に位置付け、生徒の障がいの状況及び保護者のニーズを配慮し、各教科の内容を取り扱いながら行う。

(2) コミュニティ・スクールの推進

① 開かれた学校づくり（地域と連携・協働した教育活動）

- ・ 保護者や地域人材の活用を図るとともに、生徒の興味・関心に基づく体験学習や、ボランティア活動を通して福祉の精神を育む。
- ・ 道徳授業地区公開講座を土曜日に開催し、全校道徳や地域の声を生かした意見交換会等、実施方法等を工夫し、家庭・地域・学校が一体となった指導の充実を図る。
- ・ 防災マニュアルや各種防災教育補助教材等を活用し、実践的な避難訓練を実施する。その中で、台風発生に備えたマイ・タイムラインの作成や、Jアラートへの対応について安全指導の中で着実に取り扱うとともに、避難所設営運営協議会や民生委員等、地域の方と連携した活動を取り入れることで、地域防災への関心を高める。
- ・ 警察署等の関係諸機関と連携したセーフティ教室や薬物乱用防止教室、「SNS 学校ルール」を活用した情報モラル教育等、現代的な課題に対する学習を通して、家庭・地域や関係機関との連携を強化し、犯罪や問題行動、交通事故等の未然防止等に努める。
- ・ 教育デジタルトランスフォーメーションを推進し、前向きで創造的なデジタル技術の活用を促進する。SNS については「生徒の生徒による生徒のための学校ルール」を作成・実践し、定期的に刷新していく。また、学校ルールの保護者への周知・理解及び連携を推進し、各家庭で作成したルールをもとに家庭での話し合いを促進し、意識の向上を図る。
- ・ 学校評価の結果を踏まえ、学校と家庭・地域が連携して家庭学習の習慣化に取り組む。そのために夏季休業中・2学期末に三者面談を実施し、学習教室もこの時期、各学年で実施する。
- ・ 第1学年では、自分の特性について考える（自己理解・自己管理能力）とともに、身近な人の職業についての学習をする。地域コーディネーターと連携して、地域人材を活用した「職業人の話を聞く会」を開催し、職業や生き方について考え、学ぶ態度を育成するとともに地域の方との親交を深める。第2学年では、三日間の「職場体験」を通じて働くことの喜びや苦労を実体験したり、中学校卒業後の上級学校について学習したりする。第3学年では、第1・2学年の学習を踏まえ、自己の進路選択にあたり、自ら進路希望先の説明会・学校見学等へ積極的に参加し適切な選択ができる能力（課題対応能力）を育成するとともに、進路選択に関する適時適切な情報提供及び年2回の丁寧な進路相談により、生徒一人ひとりの進路希望の実現（キャリアプランニング能力）を目指す。その際、生徒が活動を記録し蓄積する「キャリア・パスポート」の活用を図る。
- ・ 「小・中連携の日」では、小中学校の教員が授業及び学校生活の様子を相互に参観し協議することを通して異校種の実態の把握に努め、学習指導と生活指導の両面における小学校から中学校への一貫した指導について研究し、教育活動の差異が生じないようにする。また、生徒会役員による学校説明会等の交流活動を通して、中学校生活へのあこがれや期待をもつことで、小中学校の円滑な接続を図る。また、年間を通じて教務主任同士の情報交換を定期的に行う。
- ・ 保護者や地域の教育力を活用した教育活動を意図的・計画的に推進するため、二中ゾーンコミュニティ・スクールを推進し、狛江第三小学校及び狛江第六小学校と連携を図りながら、地域に根ざした学校づくりを展開する。

② 持続可能な社会の実現を目指した学校体制の構築

- ・ 協働的な活動の中での成功体験を重ねることで、生徒一人ひとりの自己肯定感や自己有用感を高め、自己実現を図れるようにする。
- ・ 生徒会活動や学級活動等の活性化を図り、集団としての意見をまとめる話し合い活動等を通して、集団の一員としての自覚を育て、望ましい人間関係を構築させるとともに、主体的によりよい学校生活を築いていこうとする態度を育成する。
- ・ 全校清掃活動等を通して、社会貢献の精神を培うとともに、学校内外のボランティア活動を奨励することで、社会に参加し、自ら考え、自ら判断する「主権者教育」を推進する。

(3) 授業の改善・充実

① 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実と「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」により、誰一人取り残すことなく、生徒の能力を最大限に伸長することで、自ら考え自ら進んで物事に取り組む自主的・自発的な生徒を育成する。
- ・ NRT等の各学力調査やWEBQUの結果、生徒による年2回の授業評価アンケートの結果を踏まえて作成した授業改善推進プランに基づき、指導方法の工夫・改善を推進するとともに、学習のねらいや評価規準・方法等を明確にしたシラバスの策定により指導と評価の一体化を図り、より一層生徒の実態に応じた学習指導を推進する。
- ・ 学習指導要領が求める「これからの時代に求められる資質・能力（三つの視点）」を踏まえ、「正しい知識を身に付け活用できる力」及び「身に付けた知識や自分の経験を根拠として思考し表現する力」の育成と「指導と評価の一体化」を目指した授業改善に取り組む。
- ・ 数学科と英語科においては、東京方式習熟度別指導ガイドラインに沿い、個に応じた指導の充実を図るために、習熟の程度に応じた少人数学習集団による指導を全学年において実施する。数学では、つまずきやすい内容の習得を目指した繰り返し学習を行い基礎・基本の確実な定着を図るとともに、発展クラスでは、数学習熟度別指導の発展教材を活用するなどして発展的な内容の理解を深める。
- ・ 学習の記録や各種調査結果等を活用し、生徒が学習目標を立てながら学習できるよう指導を工夫する。また、授業におけるリフレクションカードを有効活用し、毎時間、自己評価を継続的に行うことで主体的に学習に取り組む態度を育成する。
- ・ 「特別の教科 道徳」に関する指導内容や方法等の研究を引き続き進め、「考え、議論する」道徳を推進する。

② 教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメント

- ・ 全ての学校行事において探究的な活動を積極的に取り入れ、「主体性の育成」や「共生」の育成という視点で、これからの時代に即した内容、形式で実施する。
- ・ 道徳教育推進教師を中心とした指導体制を整備し、重点課題と関連付けた年間指導計画を作成する。「道徳の単元化」「道徳のユニット化」や、学習形態の工夫等により、重点課題の解決に向けたカリキュラムを編成するとともに、道徳的実践力の伸長を図る。
- ・ 道徳の評価については、道徳科の目標である「道徳的価値の理解」「自我関与」「多面的・多角的な考え」「よりよい生き方」を踏まえ、ワークシートや授業観察記録等を工夫することで適切な評価材料を収集し、道徳性に係る成長の様子を認め励ます個人内評価を実施する。
- ・ 総合的な学習の時間において、生徒の興味・関心に応じて、教材や学ぶ方法を選

択できるような環境を整え、生徒が時に失敗もしながらも学びを楽しめる探究的な教育活動を展開する。

- ・ 将来、生徒一人ひとりが社会人として自立し、主体的に自分の人生を歩んでいくために必要な能力や態度を培うことをねらいとしたキャリア教育を基軸とした体験的・課題解決的な学習を推進する。
- ・ カリキュラム・マネジメントに必要な「教科等横断的な視点」「PDCA サイクルの確立」「教育内容と人的・物的な資源の効果的な組合せ」の三つの側面を踏まえ、次の7点の特色ある教育活動を展開する。

ア クラス合唱や学年合唱の取組により成功体験や自己有用感を育み、相互の学び合いによりよき伝統作りと良好な学年集団を育成する。さらに、表現力の育成と「音楽の街―狛江」の更なる発展に貢献できるようにする。

イ 生活の中で生徒一人ひとりがSDG sについて考え、意識した行動をとれるように、全教育活動の中で、各教科・領域等において横断的な計画を立て推進する。その成果や取組のまとめとして3月に発表会を行い、思考力、判断力、表現力を育成する。

ウ 社会科の公民的分野や特別活動、特別の教科道徳等において、主権者教育に関わる内容を相互の関連を考慮しながら、教育課程全体を通じて指導の充実を図る。

エ 学校評価の結果を踏まえ、学校と家庭・地域が連携して家庭学習の習慣化に取り組む。生徒にとって最善、最良の教育をおこなうために、夏季休業中及び2学期末に2回三者面談を実施し、生徒理解を深め、保護者の思いも聞きながら教育活動を展開する。

オ 地域の諸活動への参加・実施を促し、地域の人々との交流を積極的に図り、人と人との触れ合いの大切さを学ぶことで、先人への感謝や互いに敬う心を育む。

カ 図書館担当教諭と学校司書を中心に、図書館の環境整備や掲示物等の充実、図書便りの発行等により読書活動の推進を図るとともに、校外学習や進路学習、学習発表会等の調べ学習において、学校司書と連携を図り、学校図書館の活用に努める。

(4) 環境の整備

① ICT 機器等を活用した教育活動（教育データの利活用等）

- ・ GIGA スクール構想推進担当を各学年に置き、タブレット端末の設定や ICT 機器の整備を着実に行うとともに、積極的に授業実践を行い、その実践事例を全教員で共有する。また、職員会議後にミニ研修会を計画的に実施し、教員一人ひとりのスキルアップを図る。
- ・ 授業では、資料提示、振り返り、授業評価等において、タブレット端末を効果的に活用する。また、授業解説動画や学習課題等の共有により、学校と家庭とのシームレス化を図る。また、社会の授業を中心に、国内外の遠隔地と教室をオンラインで繋いだ交流授業を実践することで、教育資源の有効活用を進める。
- ・ 毎回の授業後、もしくは学習のまとまりごとに、Forms を活用した生徒による授業評価を行うことを推奨し、授業内容の定着度を確認するとともに、効果的なフィードバックを行う。
- ・ 不登校生徒や登校できない生徒に対して、タブレット端末等を活用したオンラインによる担任とのやり取り、授業のライブ配信等を希望に応じて対応する。

② 人材育成による教職員の資質向上（働き方改革、研究・研修、服務事故の防止等）

ア 「働きやすい」職場環境作り～働き方改革の具体的な取組を推進する。

- ・ 職員会議、職員朝会等を大幅に削減し、会議を入れない時間を設定するなど心にゆとりをもてるようにすることで、勤務時間の短縮を図る。

- ・ 相談しやすい、話しやすい雰囲気を作り、居心地のよい職員室を実現する。
 - ・ 校務支援システムを有効活用し、職員間の連絡事項や事務作業の効率化を図る。また、ペーパーレス化や会議資料の事前配布、重要案件の事前相談（分掌主任、管理職）を重視し、諸会議を円滑に進める
 - ・ ペーパーレス化を推進するとともに、アンケート類の電子化、メール配信の活用などを推進する。
 - ・ 時差勤務、cachatto を活用したテレワーク等を導入する。
- イ 「働きがい」の醸成～人材育成による教職員の資質向上に向けた取組を推進する。
- ・ 4名程度のグループを編成し、年間を通じて日常的に授業を見合う機会を設定し、互いの授業改善を図る。
 - ・ 経営支援部が中心となって、OJT を推進する。教員同士が互いにコミュニケーションを図りながら、資質・能力を身に付ける。
 - ・ 服務事故ゼロの実現に向け、服務事故事例の日々の提示や運営委員会、職員会議、服務事故防止研修での共通認識・共通理解を継続し徹底して行う。
 - ・ 教員個人や学級担任が一人で問題を抱え込まないように、学年、学級に関係なく、全職員で全生徒を見ていく姿勢で全ての教育活動を行う。また、個人情報にかかわる事案等は、ダブルチェック、トリプルチェックを心がけ、担当者任せにならないようにする。
 - ・ 大学生（TA、実習生、インターンシップ等）を積極的に受け入れる。
 - ・ 主幹教諭、主任教諭が講師となり、若手教員向けのミニ研修会を年間通じて計画的に行う。
 - ・ 昨年度から「狛江市教育研究奨励校」として、「探究学習」を研究テーマに、校内研修会を実施する。また、その際、研修会の企画運営、進行管理を研究委員会・経営支援部が中心となって組織的・計画的・継続的に行うことで、授業改善や学校行事・総合的な学習の時間の研究をより深め、本年度の研究発表会につなげる。